

当院通院中の炎症性腸疾患の患者さんへ

作成日 2026 年 6 月 30 日

受付番号：第 I2026-093 番

課題名：

炎症性腸疾患診療におけるモニタリング方法と疾患予後に関する
多施設共同研究（御茶ノ水 IBD study）

1. 研究の対象

2000 年 1 月 1 日から通院中あるいは入院した炎症性腸疾患の患者さんです。

2. 研究期間

研究実施許可日より 2031 年 3 月 31 日までです。

3. 試料・情報の利用及び提供を開始する予定日

研究実施許可日より 2 ヶ月後から試料・情報の利用及び提供を開始します。

4. 研究目的

炎症性腸疾患は原因不明で腸管が侵される慢性疾患です。炎症性腸疾患に対する治療方法は種々ありますが、腸管病変は症状と相関しないことが多く、潰瘍の再燃と治癒を繰り返すことで、最終的には手術が必要となることがあり、治療効果の評価方法が重要です。血液検査や検便、検尿をはじめ、内視鏡検査や CT・MRI などの画像検査による病状の評価が、炎症性腸疾患の患者さんの長期予後にどのような影響を与えるかについての報告は限られています。

そこで本研究は、炎症性腸疾患で治療中の患者を対象に、臨床情報や各種検査や画像検査治療を収集し、治療の有効性と、再燃・入院・手術といった疾患予後との関係を解析することを目的としています。

5. 研究方法

本研究は後ろ向き観察研究です。2000 年以降 2026 年 7 月までの診療録（カルテ）より、診療情報を調べて行います。通常の日常診療を超えて患者さんに協力いただくものはありません。

6. 研究に用いる試料・情報の種類

診療録（カルテ）より、各種検査結果、画像検査の結果、年齢、性別、既往歴、家族歴、生活歴、罹患年数、病変範囲、合併症などの診療情報を調べます。

7. 外部への試料・情報の提供

本研究は、東京科学大学との共同研究です。収集された情報は、個人が特定されない形にしてから、東京科学大学に集められて解析されます。個人と紐づける対応表は、各共同研究機関の研究責任者が保管します。外部機関への情報提供は行いません。

8. 研究組織

東京科学大学と、国立病院機構災害医療センター、草加市立病院、東京共済病院、都立墨東病院、武蔵野赤十字病院、横須賀共済病院の多施設共同研究です。

9. 利益相反（企業等との利害関係）について

本研究は東京科学大学の運営費を用いて行われます。患者さんに費用負担が生じることはありません。また、謝金などをお支払いすることはありません。また本研究を実施するにあたり特定企業から研究費の提供は受けていません。研究を実施するにあたり特定企業との利害関係はありません。本研究の実施にあたっては、本学利益相反マネジメント委員会に対して研究者の利益相反状況に関する申告を行い、同委員会による確認を受けています。利益相反とは、研究者が企業など、自分の所属する機関以外から研究資金等を提供してもらうことによって、研究結果が特定の企業にとって都合のよいものになっているのではないか・研究結果の公表が公正に行われないのではないかなどの疑問が第三者から見て生じかねない状態のことを指します。

10. お問い合わせ先（各機関における連絡先と研究責任者、本学研究代表者）

研究についてわからないこと、心配なことがありましたら、下記相談窓口にお問い合わせください。他の方の個人情報については個人情報保護のため、知的財産については知的財産保護のため、お答えできないことをご了承ください。

東京科学大学病院 消化器内科 清水寛路
03-5803-5877（対応可能時間帯：平日 9:00～17:00）

11. 苦情窓口

東京科学大学 研究推進部研究基盤推進課 生命倫理グループ
03-5803-4547（対応可能時間帯：平日 9:00～17:00）